

輸出事業計画

※申請者名：新・新潟米ネットワーク（同）、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

- ＜生産段階＞ 低コスト生産体制の構築：他業者との競争にさらされており、食味は維持しつつも価格競争力を維持する必要がある。
- ＜流通段階＞ 集出荷・精米の効率化：取引先の多様化するニーズに応えられる体制の確保が求められている。
生産者との契約量増加：昨今の国内米価高騰に伴い、輸出用米確保へのハードルは高くなっている。
- ＜販売段階＞ 販売先の開拓：世界情勢は不透明であり、リスクを分散させる取引関係の構築が不可欠。

2. 輸出事業計画の取組内容

＜生産段階＞

- 直播、密苗の導入：試験的に導入している当社会員の結果を分析し、他会員への導入拡大を図る。
- もみ殻堆肥のほ場還元システムの構築：R5年に導入したマニユアスプレッダーを活用し、一部会員が製造しているもみ殻堆肥の散布を推進。また、営農システムを用いたデータ収集・分析により、適切かつ効率的な散布作業を目指す。

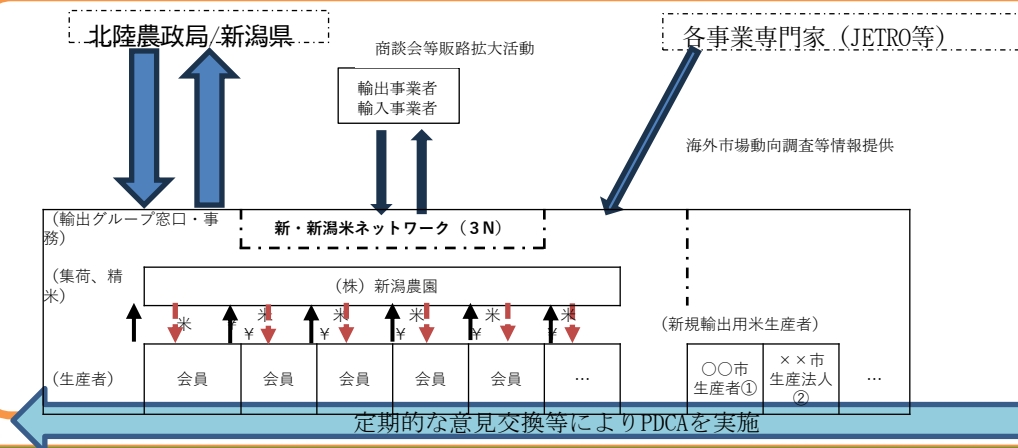
＜流通段階＞

- 集出荷・精米の効率化：収支計画に基づき、集出荷や精米の作業計画を策定することで会員の役割分担を明確化する。また、一部精米作業を外部委託に切り替えることにより、品質向上と納期短縮を図る。
- 生産者への仮渡金増額：金融機関からの資金調達により、資金繰りを緩和させることで、昨今の国内米価上昇に対抗できる価格へ仮渡金を引き上げることを目指す。

＜販売段階＞

- 輸出先のニーズの把握と国内商社等とのパイプ強化：取扱商品の価格や量の設定、品種について商社や外部専門機関を通じニーズを把握し、商品へ反映することで競合との差別化を図る。また、新規取引先を求め国内輸出商談会などに参加し、販路の開拓をおこなう。必要に応じ、小売店や飲食店との直接取引等も幅広く検討する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

	現状（令和6年度）	目標年（令和10年度）
輸出額（千円）	129,242	200,000
輸出量（t）	585.6	1000.0
輸出先国	台湾、米国、豪州、欧州、シンガポール	台湾、米国、豪州、欧州、シンガポール